

Unique &
Exciting

キャリア編

香山 瑞恵

1995年博士前期課程情報システム設計学専攻入学
信州大学副学長・工学部長・教授

多様なキャリアと挑戦の軌跡

私が所属していたのは、電気通信大学大学院の情報システム学研究科（IS）です。私はその4期生として、貴重な学びの機会に恵まれました。進学のきっかけは、科学研究費補助金基盤A研究「高等学校段階における情報教育カリキュラムの開発と大学教育の連続性に関する研究」に参画したことでした。当時、地方の県立短期大学の助手として働いていた私にとつて、電通大の先生から研究への参加を推薦されたことは大きな転機でした。このプロジェクトでの経験は、情報教育の未来に貢献できる可能性を感じさせ、私のキャリアの基盤となりました。

特に印象に残っているのは、大学院入試の面接でのプレゼンテーションです。「Before WAS was WAS, WAS was IS」というフレーズを用い、AI技術に基づく意思決定支援システムについて説明しました。WAS (Wise AI System) は、AI技術を用いて人間の意思決定を補完・強化する仮想のシステムです。この概念は、AIが人々の知恵や洞察を補完し、複雑な課題に対する賢明な解決策を提示するというアイデアとして温めていました。このような研究テーマを、ISという学問領域でさらに深めたいと面接で話した際に、大きな手ごたえを得たことは、今でも心に残っています。

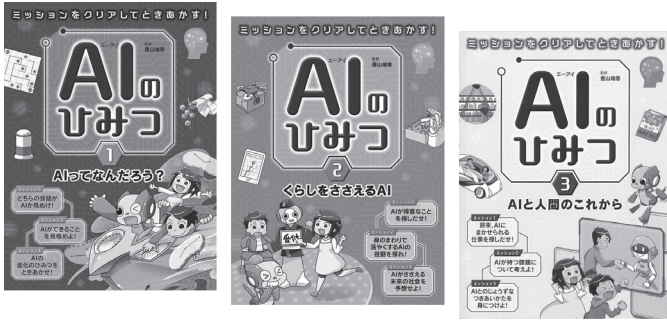
在学中のもう一つの思い出として、所属する専攻の名称があります。正式名称は「電気通信大学大学院情報システム学研究科情報システム設計学専攻知識処理システム学講座」と41文字もあり、履歴書に書ききで書くのは苦勞しまし

た（笑）。学生時代のメールアドレス「pe.ka@nec.ac.jp」は、当時の誇りであり、そのドメインを嬉しく思っていました。研究を進めながら、技術だけでなく、それを支える環境や仲間的重要性も学びました。

私は、電通大での学びがなければ、現在の自分は存在しなかったと感じています。特に、技術革新と社会の変化が加速する現代において、私たちは常に学び続ける必要があります。工学分野は技術的な進歩が著しく、今日のトレンドが明日には過去のものとなることも珍しくありません。AIやビッグデータ、さらには量子コンピューティングのような最先端技術が台頭する中で、私たちはこれらの新しい技術をどのように社会に応用し、人々の生活を向上させるかを考えなければなりません。

電通大では、そのような未来を見据えた教育が行われています。私が在学していた頃から、技術的なスキルだけでなく、社会的・倫理的な視点を持って研究に取り組むことが重要視されていました。このアプローチは、今でも私のキャリアの中で非常に大きな意味を持っています。工学者として技術を磨くだけではなく、その技術がどのように人々に影響を与えるか、社会全体にどのような変化をもたらすかを考えることが、私たちの使命であると強く感じています。

進路選択に関しては、これまで幸運にも多くの縁に恵まれ、様々なチャンスを受けてきました。研究活動を通して得た人脈や経験が、私を支えてくれました。ただ、最も苦勞したのは修



(参照) フレーベル館 つばめのおうち
<https://www.froebel-tsubame.jp/shopdetail/000000007681/>



士課程での研究テーマの選定です。テーマ決めに悩み、何度も自分の限界に挑戦することになりましたが、その過程で学び、成長できたことが、今でも私の研究に対する姿勢を形作っています。自分の研究が社会にどう貢献できるのか、その問いかけは常に私の中にあります。

卒業後は、電通大学院の技官・助手、私立大学の講師・助教、国立大学の助教・准教授・教授と、多様なキャリアを経験しました。それぞれの役職で、研究と教育に従事し、現在では地方国立大学の工学部長を務めています。

新しい役割に就いてからは、地域企業や行政との連携を深め、産学官連携を推進しています。学術の世界と現実社会をつなぐ役割を担うことは、非常にやりがいのある仕事です。今後、地域や社会のニーズに応じた研究や技術開発を進めていくことが重要だと考えています。

現在、私が重視しているのは、異分野融合による新たな価値創造です。工学はその基盤となる技術や理論を提供しますが、そこに他分野の知識や視点を取り入れることで、より創造的で持続可能な未来を描くことができます。例えば、

医療分野や環境技術との連携を強化することで、工学の可能性は無限に広がります。工学は単に物を作る技術ではなく、人々の生活を豊かにし、社会全体を変革する力を持っています。そのような可能性を追求し続けることが、これからの工学教育にとって不可欠だと思います。

最後に、後輩の皆さんへメッセージを送りたいと思います。イーロン・マスクの言葉に「Failure is an option here. If things are not failing, you are not innovating enough.」というものがあります。失敗は恐れるべきものではなく、むしろ挑戦の証です。学生時代には多くの挑戦と失敗を経験し、その中から学びを得てください。挑戦を続ける限り、必ず成長し、成功への道が開かれます。また、電通大には「たのめる」というユニークな制度があります。これは学生が直接学長に意見や提案をできる制度で、こうした機会を活用して、ぜひ自分の考えを発信してみてください。これは電通大生だけに許された特権です。

私も電通大での学びを基にして、これまで多くの挑戦と成長を遂げました。電通大で得た経験と知識は、私にとって一生の財産です。これからも、皆さんが電通大で素晴らしい経験を積み、未来を切り拓いていくことを心から願っています。皆さん一人ひとりの努力が、これからの電通大とその先の未来を形作るのです。電通大の未来、そして電通大生のさらなる発展を祈念しています。